

第 1 回の振り返りと第 2 回の論点

1. 委員会のスケジュール

開催時期		テーマ	主な議題
令和6年度	第1回	8/28	目指すべき目標とその手段について 課題設定（案）について
	現地調査【基礎調査】		
	第2回	2/4 (本日)	検討課題の対応の方向性について
	あまみずグリーンインフラコンセプトブック2024（第1弾）		
令和7年度	第3回	5月頃	技術面へのアプローチについて 政策面へのアプローチについて
	現地調査【詳細調査】		
	第4回	10月頃	技術面・政策面の各検討状況について 効果の定量評価（素案）について
	第5回	順次開催	効果の定量評価（案）について 実装モデルについて
	あまみずグリーンインフラコンセプトブック2025（第2弾）		
令和8年度	第6回	順次開催	東京都技術指針雨水・浸透技術指針 （改定案）について
	第7回	順次開催	とりまとめ
	あまみずグリーンインフラ実装ガイドブック（総集編）		

2. 委員会（第1回）における主な意見

要素	主なご意見・指摘事項	検討の方向性
検討対象の位置づけ	<p>GIには多面的な機能があり、これらも評価していく必要がある。 したがって、浸透枮などの既存技術と分けて検討することが良い。</p>	<p>既存の浸透枮などと分けて、調査検討を進める</p>
	<p>既存の取組（特に市民が取り組んできたような施設）の中には、標準化や定量評価が難しい施設もあり、定量化や標準化する施設と分けて考える必要がある。</p>	<p>標準化・定量評価を行うものと、その他のものを分けて検討を進める</p>
手段・施策の方向性	<p>対策や効果の検討は、点から線、面へと広げて考えていく必要がある</p>	<p>単体・施設（敷地）・地域（エリア）の3つにわけて検討を進める</p>
	<p>1つの施設（敷地）で、数種類のGIを複合的に取り入れて効果を発揮している場合もある</p>	<p>施設（敷地）単位の検討の中で、GIの複合駅活用も考慮していく</p>
目指すべき目標	<p>GI分の目標値を出せると良い</p>	<p>目標の設定を目指す</p>

2. 委員会（第1回）における主な意見

要素		主なご意見・指摘事項	検討の方向性
技術的課題	整備効果	雨水の流れを示すことが重要	施設単体・敷地・地域（エリア）の3つにわけて水の流れを模式化
		地域に合わせ評価することが必要	地形・地質条件等を踏まえた評価を設定 土地利用状況などの特徴を考慮した導入モデルの検討
	整備場所	都内一律ではなく、地形も社会状況などに応じてやれることが異なるので、地域特性の考慮が必要	地域特性を考慮した導入モデルを検討
		都市の整備という視点が必要	まちづくり制度等への適用を検討していく
	コスト	導入により、従来の工法による事業コストが削減することなども考慮していく必要がある	従来工法との比較などにより、ベネフィットの部分も考慮した検討を進める
		雨水流出抑制以外の価値も考慮することが必要	来年度調査を進める
政策的課題	認知度	既存のG I 取組やネットワークなどを活用すると良い	現行ネットワーク等の情報を収集し、雨水しみこみアンバサダー制度を展開していく
	意欲	既往取組も含むことで参画者の増加が見込まれる	既存の取組も取り上げていく
		情報交換や交流ができるプラットフォームが必要	東京都総合治水対策協議会や雨水しみこみアンバサダー制度を活用したプラットフォーム機能の構築
		G I の導入により、他のコスト削減などが図れる制度が必要	まちづくり制度等の検討において考慮
		コーポレート価値の向上につながる制度（仕組み）が必要	まちづくり制度や温室効果ガス削減等と同様の仕組み検討

3. 今回（第2回）の論点

今回（第2回）の論点

○ 先行実施事業・普及啓発・ロードマップ等について

- ◆ 今年度の取組状況報告、次年度に向けた課題確認

○ 技術面へのアプローチについて

- ◆ 検討を行う規模の分類と対象
- ◆ 評価手法と地盤の透水性
- ◆ 今後の定量評価に向けた検討項目

○ 政策面へのアプローチについて

- ◆ 認知度・意欲の向上のための施策展開